

## 各分野における重要科目設定に関する検討

### 今回検討事項

前回の認定検討会で、カリキュラム要件の緩和を行うにあたり、自然環境に関連する幅広いカリキュラムの体系的な履修を担保する目的で、重要科目（コア科目）を必修とした仕組みを検討した方が良いのではないか、との意見があった。そこで、重要科目（コア科目）の要件設定に関して事務局で検討を行い、次のとおり、事務局案を提示する。

### 事務局案

現行の「ECO-TOPプログラム認定審査基準」には、現在、各分野で「中心となる科目」について記載され、これまでも当該認定審査基準に基づき認定を行っているところである。認定審査基準は一般に公開されていることから、申請大学は、ECO-TOPプログラムでどのような科目を「中心となる科目」としているか認識した上で申請できる仕組みが既に整っている。

また、「各分野で6単位以上」という要件は、1科目2単位を基本とすると各分野で3科目を求める水準であるが、特定の重要科目（コア科目）を必修科目として設定することは、大学のカリキュラム選定の自由度を制限するものであり、参入大学の多様性を拡大しようとする現在の方向性とも合致せず、また、学生の選択の余地が減ることにもつながると予想される。また、大学によっては、科目名には反映されないものの別名の科目で対応するケースもあると考えられる。

以上の理由から、重要科目（コア科目）については新たに設定せず、現行のまま各分野で「中心となる科目」を推奨する仕組みを維持することとする。なお、自然環境に関連する幅広いカリキュラムの体系的な履修の担保については、様式第7号（人材育成の理念）やカリキュラム構成等により、ECO-TOPプログラムの目的や目指す人材像との整合性も踏まえて総合的に判断することとする。

一方、現行の各分野の「中心となる科目」が現在の時代に相応しい科目かどうか改めて確認したい。

### <参考>

#### 【ECO-TOPプログラム認定審査基準 第3条 教育課程の設定】

(1) ECO-TOPプログラムは、自然環境に関連する幅広いカリキュラムを体系的に履修することとする。

カリキュラム設定に当たっては、主に動植物、生態系等、自然環境に関連し、かつ、自然科学、社会科学及び人文科学の各分野にまたがるよう、学際的かつ総合的に科目を設定することとする。

各分野の中心となる科目は次のような科目とする。

自然科学 : 生物学・生態学、農学・林学・造園学、地理学・地学・地図学

社会科学 : 環境法制度、環境経済学・環境経営学、環境政策、地域環境学・景観論・自然ツーリズム学

人文科学 : 環境倫理、コミュニケーション学、環境教育

ECO-TOP 総合科目 : カリキュラムの導入科目